

2026 年度外国語学部 GC 学科

「卒業研究 I」(ゼミ) の紹介

- ・3 年前期の適当な時期に〈ゼミ選択〉を実施し、前期授業期間中に選考結果を公示する。
- ・「卒業研究 I」「卒業研究 II」「卒業研究 III」の履修登録は、選考結果に基づいて、通常の手順に従って学生自身が履修登録する。
- ・〈ゼミ選択〉に際しては、学修条件・環境を平準化する観点から、学科長が適切な募集定員(上限人数)を定める。募集定員を上回る希望者がいた場合は、2 年生修了時点の GPA 値の高い者から順次志望のゼミに振分けを行う。
- ・〈ゼミ選択〉で振分けが完了することができなかった場合は、なお定員まで余裕のあるゼミを対象として、同様の方法で〈第 2 次ゼミ選択〉を実施する。

<p>教員の名前 有富 智世（ありとみ ちせ）</p> <p>主な研究分野： フランス文学・西欧近代芸術・風俗文化史・語学教育</p>
<p>ゼミのテーマ： 多様な芸術文化表現を対象に「表象文化論」の手法を用いてアプローチする</p> <p>キーワード： 芸術・サブカルチャー・表象・アダプテーション</p>
<p>「卒業研究Ⅰ」（3年次後期）の内容と進め方：</p> <p>本ゼミの基盤となる研究視点は「表象文化論」です。「<u>表象文化論</u>」とは、<u>文学・美術・音楽・映像・写真・広告・漫画・ファッション</u>など、<u>多様な文化表現を対象に、人間・社会・歴史・他者がどのように描かれ、意味づけられてきたのかを、文化的・歴史的な文脈の中で分析する研究領域</u>です。文化におけるイメージや言説は単なる表現ではなく、その時代の価値観や社会構造、さらには権力関係をも反映しています。そこで「卒業研究Ⅰ」前半では、文学作品・図像資料・メディア表現など文化資料を横断的に検討しながら、文化におけるイメージや言説が世界や他者をどのように描き出してきたのかを考察します。その具体的な教材としてアルベール・ロビダの小説『20世紀』（1883）を輪読します。『20世紀』は、空想科学小説(SF)・挿絵・カリカチュアといった複数のメディアを組み合わせながら未来社会を描いた作品です。本作を読み解くことから、西欧近代社会がどのように未来を想像し、自らの社会や文化を表象していたのかを分析します。授業後半では、こうした学びを通して、学生が自らの関心に基づく研究テーマを見出し、卒業論文へと繋がる問いを言語化できるよう進めていきます。</p>
<p>「卒業研究Ⅱ」（4年次前期）と「卒業研究Ⅲ」（4年次後期）で指導できるテーマ：</p> <p>本ゼミでは、<u>人間が生み出してきた芸術文化表現を研究対象</u>とします。</p> <p>文学や絵画といった「ハイ・アート」から、アニメ・漫画・ゲームなどの「サブカルチャー」、さらに古典作品が新しいメディアへと姿を変える「アダプテーション（翻案）」まで、ジャンルの枠を越えた探究が可能です。<u>作品を単なる個人の創作物として捉えるのではなく、その背後にある時代の価値観や歴史的背景、社会的意味を読み解くことを目指します。</u>（※以下、例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文芸・絵画：言葉やイメージがどのように世界を描き出してきたのかを考察する ●文化史：過去の風俗や思想が現代の文化や感性とどのように繋がっているのかを探る ●アダプテーション：古典作品が映画・アニメ・漫画などへ翻案される過程を分析する ●サブカルチャー：社会の中でどのような意味を持つのかを考察する
<p>事前相談の実施方法：基本的に有富研究室（A645）にて面談を実施します。</p> <p>それ以外の方法をご希望の場合はメールにお書き添えください。aritomi@sz.tokoha-u.ac.jp</p>
<p>教員からのメッセージ：</p> <p>「好きなもの」を単なる感想で終わらせず、理論や分析の視点を用いて読み解く。それが研究の出発点です。私たちの周囲には多様な芸術文化表現が存在しています。本ゼミでは、それらを「なぜ面白いのか？ どのような社会や価値観を映し出しているのか」という問いから考察していきます。教員やゼミの仲間との対話を通して関心を深め、独自の問いを見つけ出して、それを卒業論文として形にしていきたいと思います。</p>

<p>教員の名前 伊藤 雅俊 (いとう・まさとし)</p> <p>主な研究分野：エスノグラフィー（民族誌）、地域研究、文化人類学</p>
<p>ゼミのテーマ：日本に居住する外国人・外国ルーツの人々を対象としたエスノグラフィー研究</p> <p>キーワード：エスニシティ、移民、異文化理解、ディアスポラ</p>
<p>「卒業研究I」（3年次後期）の内容と進め方：</p> <p>第一に、エスノグラフィー研究の基礎を学びます。第二に、レジュメの作成および研究発表の方法を習得します。第三に、文献研究の方法を身につけます。第四に、各自の関心に基づいてテーマおよびトピックを設定し、文献研究を行います。最後に、文献研究を基に研究発表を実施します。</p> <p>授業は対話的に進めますので、肩の力を抜き、間違いを恐れずに積極的に発言・応答してください。また、最終発表に加えて中間発表も行うため、各自 2 回の発表機会があります。授業時間内にリアクションペーパーを作成する回もあります。</p> <p>なお、エスノグラフィー研究に特徴的な質的フィールドワークは、4年次の「卒業研究II」以降に実施します。実際にフィールドを訪れる前に、文献研究に加え、インタビューの練習や調査協力依頼文の作成、フィールドでのマナー・倫理など、入念な事前準備が必要だと考えるからです。</p>
<p>「卒業研究II」（4年次前期）と「卒業研究III」（4年次後期）で指導できるテーマ（これまで指導した学生の卒業研究のテーマ）：</p> <p>日本に暮らす外国人・外国ルーツの人々の文化および社会活動全般（エスニシティ、エスニック・コミュニティ、エスニック・ビジネス、食文化、宗教、生活史、母国とのつながり、国際結婚など）</p>
<p>事前相談の実施方法：</p> <p>世界各地のエスニック集団やマイノリティ集団、ならびに国境を越えた人の移動、とくに日本に居住するインドネシア人、日系人、ムスリムに関心のある学生は、電子メールでアポイントメントを取ったうえで、伊藤の研究室（A514）を訪問してください。あるいは、伊藤担当の授業終了後に気軽に声をかけてください。</p>
<p>教員からのメッセージ：</p> <p>エスノグラフィー研究の一般的な流れは、テーマとフィールドを設定した後、文献研究を行い、続いて質的フィールドワークを実施し、最終的にエスノグラフィー（民族誌）を執筆するというものです。</p> <p>エスノグラフィー研究では、フィールドにおいて問題を発見し、それを掘り下げていきます。また、フィールドの人々との血の通った交流を通して、異文化理解の方法を実践的に学べるだけでなく、「文化的他者」を尊重する姿勢を身につけることができます。</p> <p>このような主体的かつ体験的な学びに興味のある学生を歓迎します。ゼミの仲間とともに、エスノグラフィー研究に挑戦し、「Beyond the Limits」という理念を実践していきましょう。</p>

<p>教員の名前 江口 佳子（えぐち・よしこ）</p> <p>主な研究分野：ブラジル現代文学、女性文学、ジェンダー、ブラジル軍事政権</p>
<p>ゼミのテーマ：ポルトガル語圏の社会事情と文化の特徴</p> <p>キーワード：多民族多文化、社会格差、社会的マイノリティ、文化表象</p>
<p>「卒業研究Ⅰ」（3年次後期）の内容と進め方：</p> <p>3年次の後期は、二つのことを目的としています。一つは、論文を書くための具体的な作業について、その方法を学びます。もう一つは、授業を通じて関心を持ったテーマや課題から、「自分が明らかにしたいことは何か」を探求することです。前半では、全員でブラジルの社会格差に関する基本文献を輪読し、社会課題として問題提起されている事象についてディスカッションしたうえで、各人が書評レポートを作成します。後半では、後期末の他大学との合同ゼミに向けて、グループ発表を準備します。また、卒業研究のテーマに関する予備報告を行い、4年次の研究計画の作成と研究に向けた準備をします。</p>
<p>「卒業研究Ⅱ」（4年次前期）と「卒業研究Ⅲ」（4年次後期）で指導できるテーマ（これまで指導した学生の卒業研究のテーマ）：</p> <p>ポルトガル語圏の研究として指導し、提出されたサブ・レポート例は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「映画『ファミリア』に描かれた日系ブラジル人の若者が抱える問題」 ・「ブラジル日系社会における野球—スポーツ社会学の観点から」 ・「アマゾンの労働問題と活動家マリナ・シルバについて」 ・「“移民の父”水野龍と日本のコーヒー文化」 ・「ブラジルの歴史地区から見えるポルトガルの影響」 ・「現代ブラジル政治—右派ボルソナーロの政策」
<p>事前相談の実施方法：</p> <p>面談をしますので、次のメールアドレスにご連絡ください。</p> <p>eguchi.yoshiko@sz.tokoha-u.ac.jp</p>
<p>教員からのメッセージ：</p> <p>卒業論文は、4年間で育んだ知的関心を具体的な成果として形にするものです。論文の作成は、個々の努力に負うことは言うまでもありませんが、ゼミ活動を通じた交流や議論により、共に知識や理解を深めてゆくことが出来ます。そのような協働作業の経験は、様々な課題にアプローチするときに活かされるでしょう。</p> <p>ポルトガル語圏の国々は植民地支配という複雑な歴史によって、現在の多民族多文化社会を形成しています。それがまた、豊かな文化に表れているといえます。静岡県には、ブラジル出身者も多く在住していますので、ポルトガル語圏の社会・文化について多角的に学び、その魅力を一緒に探求しませんか。</p>

<p>教員の名前 坂本 勝信（さかもと・まさのぶ）</p> <p>主な研究分野：日本語教育、多文化共生</p>
<p>ゼミのテーマ：日本語教育に係る習得研究及び、多文化共生研究</p> <p>キーワード：言語習得、教師・学習者研究、教科書分析、多文化共生</p>
<p>「卒業研究Ⅰ」（3年次後期）の内容と進め方：本ゼミでは、初学者のための研究ガイドである教科書を用いて、日本語教育学の研究領域を知るとともに研究目的・先行研究・研究方法などリサーチデザインに関わることを学び理解する。研究方法は、量的・質的研究について複数の手法を取り上げる。そのうえで、自身の興味関心に沿った研究テーマを選定し4年時の本格的な研究活動に備えるため、予備的な研究計画を作成する。本科目では、指定された教科書章におけるレジメを作成し発表するという形式にて進める。なお、本ゼミは、主に第二言語習得研究、学習者研究、教師・授業研究、「やさしい日本語」をはじめとする多文化共生に係る研究などに組みたい人の履修を期待するが、日本語の文法、日本語の意味・語彙、日本の音声など日本語自体の分析に直結するテーマも歓迎する。</p>
<p>「卒業研究Ⅱ」（4年次前期）と「卒業研究Ⅲ」（4年次後期）で指導できるテーマ（想定される学生の卒業研究のテーマ）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語レベルによる存在の場所「に」と動作の場所「で」の習得度調査～KY コーパスを用いて～ ・日本語初級総合教科書における「あいづち」「フィラー」の特徴～文型中心・行動中心教科書の比較を通して～ ・日本語教師の「ほめ」の特徴を分析する～「日本語教師発話コーパス」を用いて～ ・実習生のビリーフ形成の実態とその要因を探る～アンケート及び、インタビュー調査を通して～ ・「やさしい日本語」の認知度調査～先行研究と大学生へのアンケート調査の分析を基に～ <p>など</p>
<p>事前相談の実施方法：ゼミ選択に関する相談は、以下のメールアドレス（msaka@sz.tokoha-u.ac.jp）に連絡を入れ、アポイントを取ってください。</p>
<p>教員からのメッセージ：研究というと、非常に難しいもののように感じる人がいるかもしれませんが。ただ実は、語学学習者としての体験、これまで接点を持った多くの語学教師の考え方、どうやったらわかりやすく教えられるか、外国人住民との共生に対する不安など、普段なんとなく感じている思いや疑問点を客観的な手法で明らかにしていくものであると捉えれば、興味が湧いてくるかもしれません。研究計画の立て方や研究方法など研究の「いろは」をともに学んでいきましょう。</p>

<p>教員の名前 谷 誠司</p> <p>主な研究分野：日本語教育、言語テスト</p>
<p>ゼミのテーマ：コミュニケーションを解剖するー応用言語学の視点からー</p> <p>キーワード：日常の言葉の分析、応用言語学、談話分析、コミュニケーションの仕組み</p>
<p>「卒業研究I」（3 年次後期）の内容と進め方：</p> <p>言葉は単なる記号の体系ではなく、社会や人間関係の中でダイナミックに機能しています。このゼミでは、マンガ、歌詞、SNS、ボードゲーム、日本語教育など、日常のあらゆる場面を「応用言語学」のフィールドとして捉え、言葉の仕組みを解明する手法を学びます。「卒業研究I」では、「校歌の歌詞分析（静止した言葉・テキスト）」と「日常談話の分析（動いている言葉・ディスコース）」という2つの実践を通し、データ収集から分析・発表までのプロセスを体得します。これらと並行して、各自が4年次で取り組む卒業研究のテーマを具体化させていきます。なお、日本語教材やテストの分析、学習者の発話分析など、日本語教育に直結するテーマも歓迎します。</p>
<p>「卒業研究II」（4 年次前期）と「卒業研究III」（4 年次後期）で指導できるテーマ（これまで指導した学生の卒業研究のテーマ）：</p> <p>これまで学生が書いた研究タイトル（抜粋）です。</p> <p>「e スポーツ実況解説の会話分析」、「キャラクターの言葉遣いにみる言語表現と人物像の分析」、「ラッパーZORN の曲における韻の子音分析」、「『ドリトル先生航海記』におけるキャラクターの言語表現及び翻訳の分析」、「インターネットラジオと配信アプリのリスナーとの談話の比較分析」、「リメイク版ドラマから見る日韓の依頼表現の比較」、「静岡市内の商業施設における言語景観調査」、「TOEIC 及び英検の分析-読解問題の質問タイプの分析を中心に-」、「静岡県内の JA ホームページの内容調査」、「少年漫画のタイトル分析」、「リモート初級授業における教師から学習者へのフィードバックの仕方：学習者の学びを導く案内人を目指したアクションリサーチ」</p>
<p>事前相談の実施方法：</p> <p>ゼミ選択に関する相談は、下記のメールアドレスにご連絡ください。</p> <p>taniseiji@sz.tokoha-u.ac.jp</p> <p>いただいた連絡には、日程を調整して必ず時間をつくります。</p>
<p>教員からのメッセージ：</p> <p>私の好きな韓国語のフレーズの一つに「알아서 해 주세요（アラソ ヘジュセヨ）」があります。直訳すれば「(状況を分かった上で) お任せします/よしなにやってください」といった意味ですが、談話分析の視点で見れば、場面によって「信頼」にも「突き放し」にもなる面白い表現です。私としては、皆さんと私の間に前者の意味での「알아서 해 주세요（信頼してお任せします）」という関係が築けるようなゼミにしたいと思っています。</p>

<p>教員の名前 谷口 茂謙（たにぐち・しげのり）</p> <p>主な研究分野： キャリア教育 英語教育</p>
<p>ゼミのテーマ：私のキャリアを描く</p> <p>キーワード： 将来の理想像 職業選択 家庭経営 資産運用</p>
<p>「卒業研究I」（3 年次後期）の内容と進め方：</p> <p>将来の人生はどう変わるかわからない。そのとおりです。だからと言って、将来について深く考えず今を楽しむことで幸せになれるのでしょうか。将来はいずれわかるものではなく、自分で考えるものです。自分の理想像を描き、その実現に向けてどうするかを考える。それがこのゼミのテーマです。</p> <p>I では、いろいろな先輩たちの人生を知り、どのような生き方が自分の理想に近いかを調べ、それを参考に、70 歳、50 歳、30 歳の自分の理想像をはっきりさせます。そして、それぞれの理想像を実現するために、仕事、家庭、お金、さらには社会の今後の変化など、様々な視点から仲間同士で議論をしながら、自分の理想の将来像を明確にすることを目指します。</p> <p>担当した事柄について真摯に情報を調べ、それを発表してお互いに共有します。学んだ情報を基に自分はどのような幸せを追求するか、それをどのように実現するかを考えて発表し、仲間と意見交換をします。自分が気づいていなかった幸せの要素を柔軟に取り入れ、自分の将来の理想像をより具体的に説明できるようにします。</p>
<p>「卒業研究II」（4 年次前期）と「卒業研究III」（4 年次後期）で指導できるテーマ（これまで指導した学生の卒業研究のテーマ）：</p> <p>4 年次は、I で考えた自分の理想像を実現するために、最も知りたいことについて考えます。各自で最も知りたいことは異なるでしょう。例えば、自分が目指す仕事の将来性、仕事と家庭の両立、理想の実現に向けたお金の準備、社会情勢の変化の見通しなど、いろいろな視点から自分の課題を見つめましょう。そして、最も解決する必要がある課題を見つけ、それを深く考察してもらいます。</p>
<p>事前相談の実施方法：</p> <p>まずは次のアドレスにメールでお問い合わせ下さい。 taniguchi@sz.tokoha-u.ac.jp 面談を希望される場合は、日時を必ず調整しますので、ご遠慮なくその旨をお伝え下さい。</p>
<p>教員からのメッセージ：</p> <p>決して自分の人生を決めるものではありません。自分の理想のモデルを作るのです。それを実現するために生きる途上で、新たな出会いに恵まれ、思わぬ方向への発展があり、自分の目指す幸せの新たな理想像が見えてきます。仲間たちと一緒に、自分の理想のモデルを考えましょう。自分の理想の実現に向けて真摯に取り組む人に、素敵な出会いや素晴らしいチャンスが巡ってくるはずです。</p>

<p>教員の名前 崔 慶原</p> <p>主な研究分野：東アジア国際関係、日韓関係、朝鮮半島の地域研究</p>
<p>ゼミのテーマ：東アジア国際関係と日韓関係（韓国外交・日本外交を含む）</p> <p>キーワード：日韓関係、米中関係、北朝鮮問題、中堅国外交、世論と外交</p>
<p>「卒業研究I」（3 年次後期）の内容と進め方：</p> <p>卒業論文に向けて、まずは自分の問いを見つけることを目標にします。東アジアの国際関係や韓国外交、日本外交を素材にしながら、国際関係論の基本的な考え方を確認します。そのうえで先行研究を読み、「何が分かっている、何がまだ十分に説明されていないのか」を整理します。</p> <p>後半には各自が研究テーマを定め、研究計画書を作成します。問いの立て方、仮説の組み立て方、資料の集め方などを一つひとつ確認しながら、卒業研究の土台を固めていきます。</p>
<p>「卒業研究II」（4 年次前期）と「卒業研究III」（4 年次後期）で指導できるテーマ（これまで指導した学生の卒業研究のテーマ）：</p> <p>外交・安全保障だけでなく、政治・社会・世論・文化と国際関係の接点も扱うことができます。以下は、これまで指導した学生の卒業論文タイトルです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日韓の外国人労働者支援の比較—地方自治体の対応を中心に— ・ K-POP ダンスにおける身体表現とカミングアウト ・ 韓国芸能人を自殺に追い込む悪質リプライへの対応 ・ 脱北民ユーチューバーと韓国社会 ・ ヴィーガンコスメの日韓比較 ・ 映画にみる日韓の格差社会 ・ 韓国若者の支持政党の分岐—男女の差に着目して— ・ 北朝鮮政策をめぐる日韓安全保障関係—第 3 次北朝鮮核危機における対北政策の相違を中心に— ・ 日韓 GSOMIA 締結の成否を分けた要因—2012 年の失敗と 2016 年の成功の比較分析—
<p>事前相談の実施方法：</p> <p>以下のメールアドレスにご連絡ください。面談時間を設定します。</p> <p>kyungwonchoi@sz.tokoha-u.ac.jp</p>
<p>教員からのメッセージ：</p> <p>国際関係は、ニュースの中だけの話ではありません。私たちの生活、企業活動、文化交流にも深く関わっています。このゼミでは、出来事をそのまま受け取るのではなく、「なぜその選択がなされたのか」、「背景にどのような構造や理念があるのか」を考えます。感情や印象ではなく、資料と論理に基づいて考える力を身につけることが目標です。</p> <p>東アジアの現在を、自分の言葉で説明できるようになりたい人。国際政治を少し深く理解してみたい人。一緒にじっくり考えていきましょう。</p>

<p>教員の名前 戸田 裕司（とだ・ゆうじ）</p> <p>主な研究分野：中国史</p>
<p>ゼミのテーマ：伝統中国の社会と文化</p> <p>キーワード：中国社会，中国文化，中国史，現代中国</p>
<p>「卒業研究Ⅰ」（3年次後期）の内容と進め方：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年後期は，皆さんの興味関心と調査に基づき，卒論のテーマを探求する時期と考えています。 ・前半は共通のテキストを皆で読み，意見交換することを通じて，「中国」という研究対象についての理解を深めます。ここでの議論の中で，私も含めた参加者の間でお互いの興味や問題意識を知ることができればうれしいです。 ・後半は，皆さんが構想している研究テーマについて報告してもらいます。自分の構想をまとめて報告し，それに対する質問・批判・コメントに回答することで，あなたのテーマはより明確で意味のあるものになるはずですよ。 ・学期末には，皆さんの研究テーマ(卒論テーマ)への取り組みの中間報告として「主題レポート」(2000字以上を予定)を執筆・提出してもらいます。自分のテーマについて，従来はどのように考えられてきたのか，研究のための資料がどの程度あるかなどについて，皆さんなりに文章にまとめることは，皆さんが次年度の卒論執筆に向けた調査・研究の準備態勢を整えるよいきっかけになるでしょう。
<p>「卒業研究Ⅱ」（4年次前期）と「卒業研究Ⅲ」（4年次後期）で指導できるテーマ（これまで指導した学生の卒業研究のテーマ）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国の伝統文化・社会に関するものであれば，自由にテーマ設定して構いません。現代社会における伝統文化の在り方など現代に引き付けたテーマも含まれます。 ・カリキュラムが違うので直接の参考にはなりません，旧課程の「特別研究」でここ数年間提出されたサブ・レポートのタイトルの一部を挙げておきます。 <p>「中国社会における女性観の転換—唐宋から明清までの変化をたどる—」「訪日中国人観光客の行動心理を読み解く」「台湾と日本の女性の政治参加の比較—日本に女性首相は誕生するのか—」「アニメから見る中国社会」「中国の就職難から見る社会問題」</p>
<p>事前相談の実施方法：</p> <p>メール（toda-yuji@sz.tokoha-u.ac.jp）あるいは Teams のチャットで連絡してください。時間を調整して面談の機会を作ります。</p>
<p>教員からのメッセージ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュースや報道などで見える中国という国は，とても分かりにくいところで，時に安全保障上の「脅威」でさえあります。でも中国の人は分かりやすく，興味深い人びとであることは間違いありません。なんだか矛盾していますよね。 ・この矛盾した（...と思われる）中国—勉強しておいて損はありません。伝統中国の社会と文化，あるいはその帰結である今の中国に関心をもつ皆さんをお待ちしています。

<p>教員の名前 増井 実子（ますい・じつこ） 主な研究分野：スペイン近世史、スペイン地域研究</p>
<p>ゼミのテーマ：マイノリティという視点で読み解くスペインの歴史と社会— なぜ、その人たちは社会の「周縁」に置かれてきたのか／置かれているのか — キーワード：スペインの社会と歴史、マイノリティ、アイデンティティ、周縁と中心</p>
<p>「卒業研究I」（3 年次後期）の内容と進め方： スペインの歴史や現代社会を題材に、「マイノリティ」という視点から社会の成り立ちを考えるゼミです。宗教・文化・地域などの違いが、どのようにして特定の人々を社会の中心／周縁へと位置づけてきたのかを、歴史的な流れや現代の状況から考えます。 3 年次後期は、研究テーマを見つけることが最大の目標です。主な内容は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • スペイン地域研究の視点と方法を学ぶ • 文献の探し方・読み方を習得する • 概説書・新聞記事・学術論文の輪読 • 映像資料の視聴とディスカッション • 研究テーマ案の発表と質疑応答 • 研究計画書の作成 <p>自分の問いを言語化する力を養い、4 年次の卒業研究につなげましょう。</p>
<p>「卒業研究II」（4 年次前期）と「卒業研究III」（4 年次後期）で指導できるテーマ（これまで指導した学生の卒業研究のテーマ）：</p> <p>○スペインおよびスペイン語圏に関する歴史研究、現代社会分析、文化研究といったテーマでしたら対応できます。事前相談の際に「こんなテーマを考えてます！」ということをお教えください。現時点では漠然としたアイデアでも構いません。</p> <p>○過去のゼミ生が扱ったテーマを参考までに書いておきます。「スペインにおけるイスラーム系住民（モリスコ）の歴史と追放問題— 宗教と国家の関係を歴史から考える」「フラメンコとロマ（ジプシー）文化— 周縁から生まれた文化は、どのように「国民文化」になったのか」「スペイン内戦と亡命・ディアスポラ— 戦争は人々のアイデンティティをどう変えたのか」「現代スペインにおける移民と多文化共生」「観光大国スペインの「多様性」と課題」、など。</p>
<p>事前相談の実施方法：メールでアポをとってください。相談タイムを設けます。 jitsuko@sz.tokoha-u.ac.jp</p>
<p>教員からのメッセージ： 「これって当たり前なの？」「なんか変じゃない？」 そんなモヤモヤを、ちゃんと言葉にして考えてみたい人に来てほしいゼミです。スペインの歴史や社会を題材にしながら、社会の中で“目立たない場所”に置かれやすい人たち（マイノリティ）の立場から、世の中のしくみを考えてみましょう。歴史を学ぶのは、昔の出来事を覚えるためだけではなく、今の社会を「なぜこうなっているんだろう？」と考えるヒントにもなります。自分の「気になる」を出発点にして、問いを立てて、資料を読んで、みんなで話し合いながら、卒業研究のテーマにつなげていきましょう。</p>



2026 年度外国語学部 GC 学科「卒業研究Ⅰ」（ゼミ）の紹介

教員の名前 三村 友美 主な研究分野：別途指示する。
ゼミのテーマ：別途指示する。 キーワード：別途指示する。
「卒業研究Ⅰ」（3 年次後期）の内容と進め方： 別途指示する。
「卒業研究Ⅱ」（4 年次前期）と「卒業研究Ⅲ」（4 年次後期）で指導できるテーマ（これまで指導した学生の卒業研究のテーマ）： 別途指示する。
事前相談の実施方法： 別途指示する。
教員からのメッセージ： 別途指示する。

<p>教員の名前 柳 采延</p> <p>主な研究分野：韓国地域、社会学、ジェンダー</p>
<p>ゼミのテーマ：現代韓国の社会と文化</p> <p>キーワード：韓国社会、韓国文化、日韓比較、家族・ジェンダー</p>
<p>「卒業研究I」（3 年次後期）の内容と進め方：</p> <p>ゼミでは、社会学の考え方を学ぶことで、私たちの人生や日常の中で起こる諸現象や「当たり前」を、社会的文脈において捉える視点を身につけます。また、現代韓国（または日本、東アジア）の様々な社会・文化現象について、その背景や要因となる社会構造・メカニズムを思考する力を養います。</p> <p>【前半】①社会と文化を読み解く視点と社会調査の方法論（インタビュー、質問紙調査、参与観察、生活史、会話分析、内容分析など）について学びます。②現代韓国の社会や文化に関するいくつかのテーマを取り上げ、関連分野のテキストを読み、レジュメの作成・プレゼンテーション・議論を行います。</p> <p>【後半】各自の関心に基づいて卒業研究のテーマを設定し、先行研究に関する文献レビューをすすめていきます。</p>
<p>「卒業研究II」（4 年次前期）と「卒業研究III」（4 年次後期）で指導できるテーマ（これまで指導した学生の卒業研究のテーマ）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東アジアの社会変動と家族の変動 ・現代韓国文化の社会的分析 ・韓国の家族・若者・教育・就業・格差等に関するテーマ ・日韓における女性運動やジェンダー不平等をめぐる問題 ・日韓におけるルッキズムなど <p>（韓国社会や文化を社会的な視点から分析するテーマであれば、上記に挙げたものに限らず幅広く指導できます。また、ジェンダーや家族に関するテーマについては、研究対象地域を問いません）</p>
<p>事前相談の実施方法：</p> <p>メールで事前に面談の日程を相談してください。</p> <p>rycy@sz.tokoha-u.ac.jp</p>
<p>教員からのメッセージ：</p> <p>現代韓国社会は、急速な経済成長、新自由主義的な労働市場や教育競争の激化、少子化・非婚化、ジェンダー平等の実現をめぐる葛藤、ルッキズム（外見至上主義）、韓国ポップカルチャーの世界的拡散など、多くのダイナミックな変化の只中にあります。本ゼミでは、そうした現象を単なる「話題」や「印象」として消費するのではなく、その背後にある社会構造や歴史的背景、制度、価値観の変容を丁寧に考えていきます。韓国社会を主な対象としますが、必要に応じて日本や東アジアとの比較も行います。ゼミを通じて韓国を深く理解するだけでなく、私たちが暮らしている日本社会や日本的価値観を相対化する力をも養ってもらえればと思います。</p> <p>韓国文化や社会に興味がある人、現代の家族・ジェンダーの問題に関心がある人はもちろん、現代社会や日常のさまざまな現象を俯瞰的かつ多角的に考えられるようになりたい人の参加を歓迎します。</p>

教員の名前 若松 大祐（わかまつ・だいすけ） 主な研究分野：現代台湾地域研究、中国近代思想史、近代東アジア政治史
ゼミのテーマ：地球的課題の由来を知ったり、特定地域の「らしさ」を探ったりする。 キーワード：歴史叙述、中国、台湾、地域研究
「卒業研究I」（3 年次後期）の内容と進め方： ・3 年次後期は、学生が自らの興味関心を明確にする。つまり、テーマを探して決める。 ・「卒業研究I」の前半は、共通のテキストを輪読して「研究の仕方」を学ぶ。 ・「卒業研究I」の後半は、学生が自らのテーマを立ててそれを発表する。学生同士が互いに批判する。 ・学期末には、レポートを提出する。レポートには、「テーマ」、「先行研究」、「研究方法（資料や概念）」、「卒業論文の目次」がそれぞれ必要になる。
「卒業研究II」（4 年次前期）と「卒業研究III」（4 年次後期）で指導できるテーマ（これまで指導した学生の卒業研究のテーマ）： ・地域研究は対象地域や問題を問わない。 ・とはいえ、担当教員に関心の強弱、知識の多寡、手法の得手不得手がある。
事前相談の実施方法： ・電子メール（dwakamatsu [@ を挿入] sz.tokoha-u.ac.jp）、teams ビデオ通話、研究室訪問。 ・可能な限り、事前にメールでアポイントメントを取りましょう。
教員からのメッセージ： 地球上では様々な問題が発生しています。そうした問題がなぜ起きているのか。どのような解決策があるのか。こういったことに関心ある学生の参加をお待ちしています。また、地球上の特定の地域の「その地域らしさ」を知りたい、という学生の参加も歓迎いたします。 資料の収集に際し、図書館を大いに活用します。常葉大学の草薙図書館や瀬名図書館は当然のこと、静岡県立中央図書館にも足を運びます。